

## 14. 地球環境

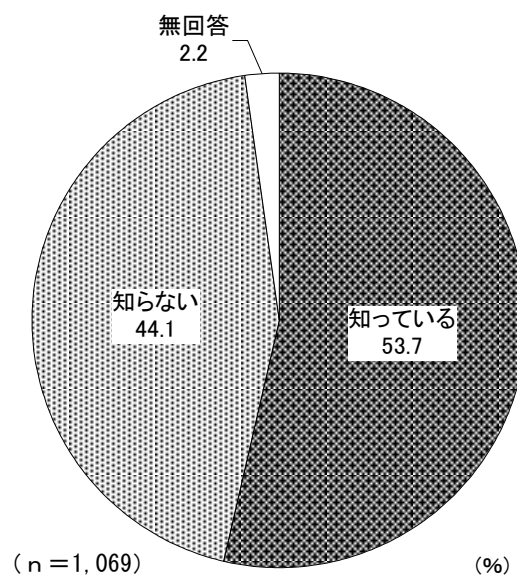
### (1) 「清潔で美しい大田区をつくる条例」の認知度

◇「知っている」は5割を超える

問 25 大田区では、環境美化を促進するために、「清潔で美しい大田区をつくる条例」を制定し、道路、公園、広場その他の公共の場所では歩行中に喫煙しないよう努めることを定めています。また、公共の場所に吸い殻などを捨てることを禁止しています。

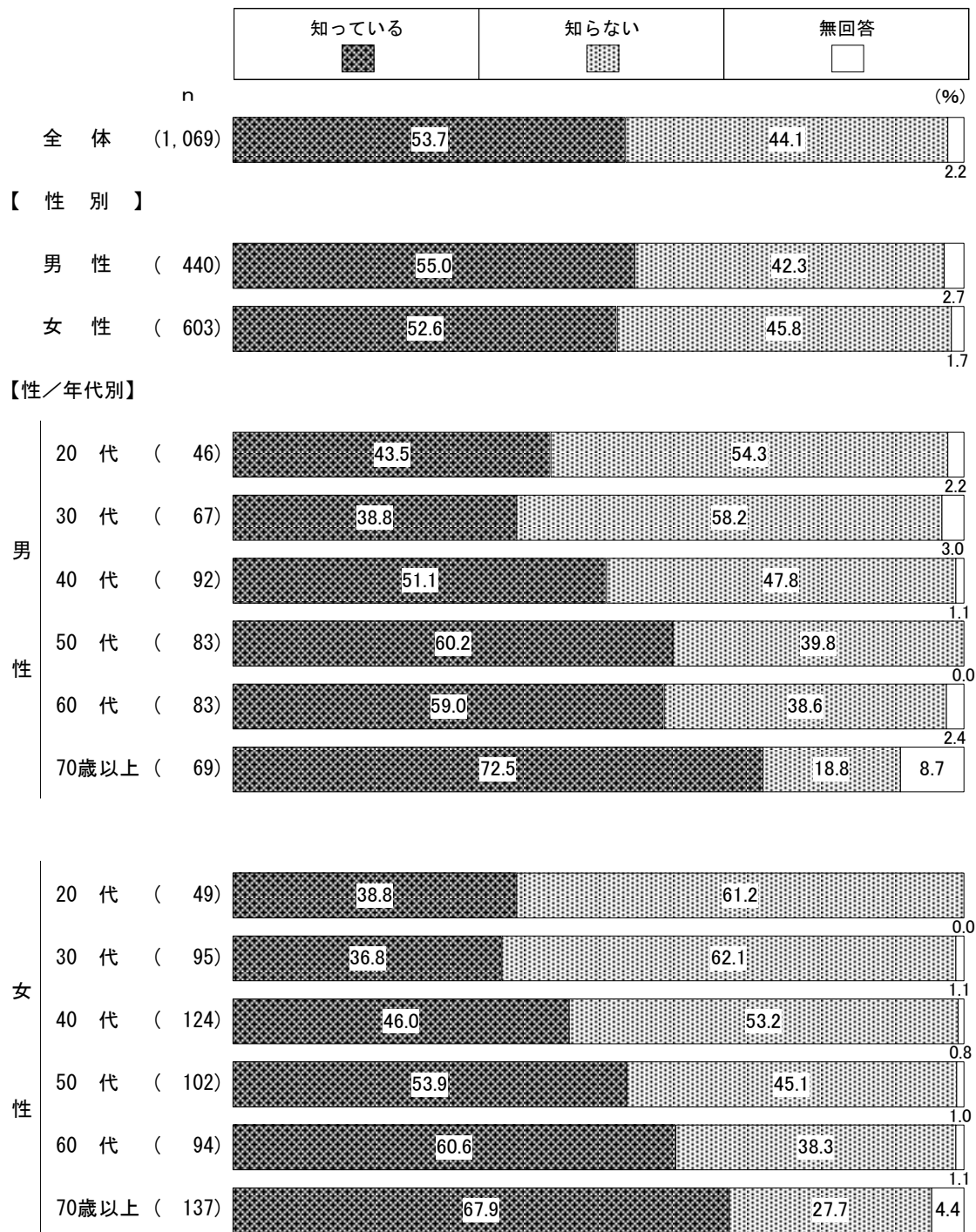
(1) このことについて知っていますか。(○は1つだけ)

図 14-1-1



「清潔で美しい大田区をつくる条例」を知っているか聞いたところ、「知っている」(53.7%)が5割を超え、「知らない」(44.1%)は4割半ばとなっている。(図 14-1-1)

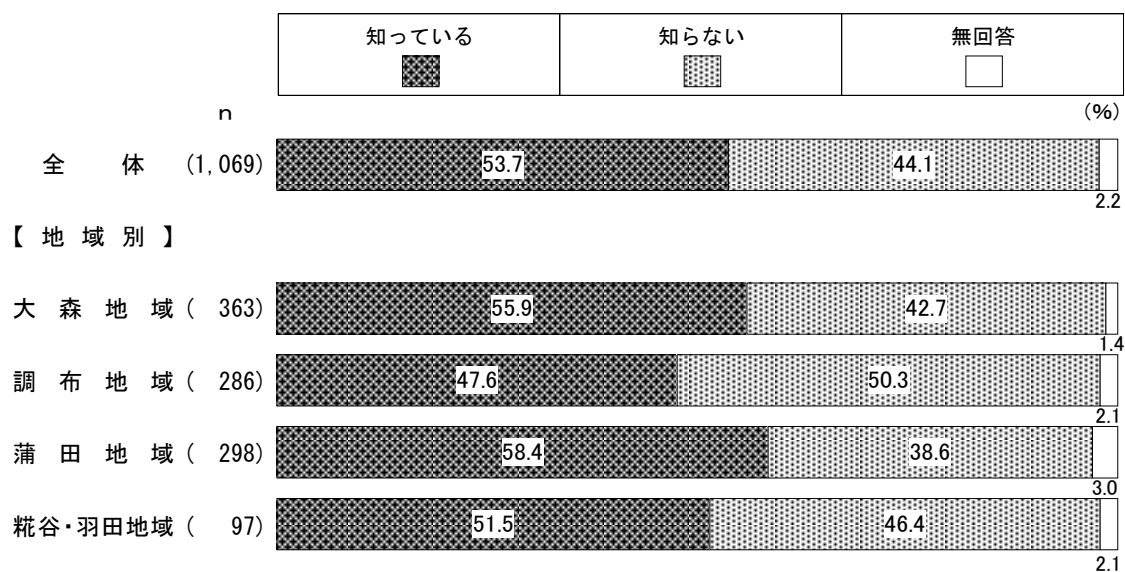
図 14-1-2 「清潔で美しい大田区をつくる条例」の認知度—性／年代別



性別で見ると、「知らない」は女性 (45.8%) が男性 (42.3%) より3.5ポイント高くなっている。性／年代別で見ると、「知っている」は男性70歳以上 (72.5%) で7割を超えて高くなっている。一方、「知らない」は女性の20代 (61.2%) と30代 (62.1%) で6割を超えて高くなっている。

(図14-1-2)

図 14-1-3 「清潔で美しい大田区をつくる条例」の認知度—地域別



地域別でみると、「知っている」は蒲田地域（58.4%）で6割近くと高くなっている。一方、「知らない」は調布地域（50.3%）で5割となっている。（図14-1-3）

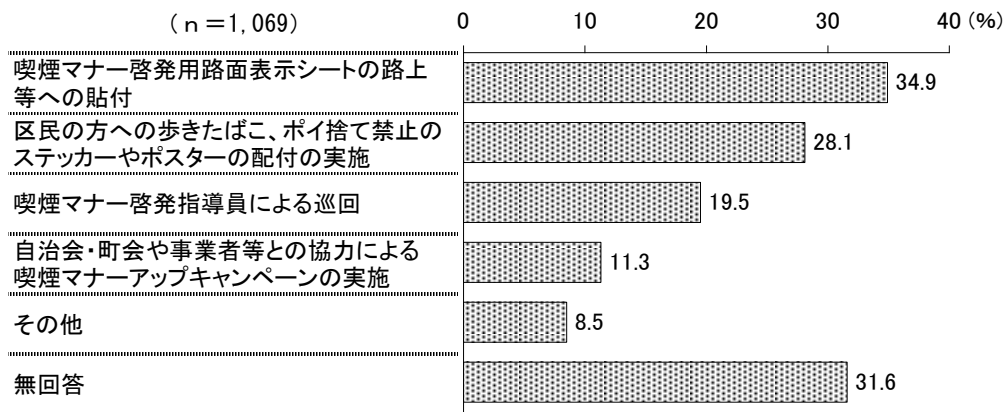
## (2) 喫煙マナーを周知徹底するための取組み

◇「喫煙マナー啓発用路面表示シートの路上等への貼付」が3割半ば

問 25 大田区では、環境美化を促進するために、「清潔で美しい大田区をつくる条例」を制定し、道路、公園、広場その他の公共の場所では歩行中に喫煙しないよう努めることを定めています。また、公共の場所に吸い殻などを捨てることを禁止しています。

(2) こうした喫煙マナーを周知徹底するために、区では以下の取組みを行っています。あなたがご存知なものを挙げてください。(〇はいくつでも)

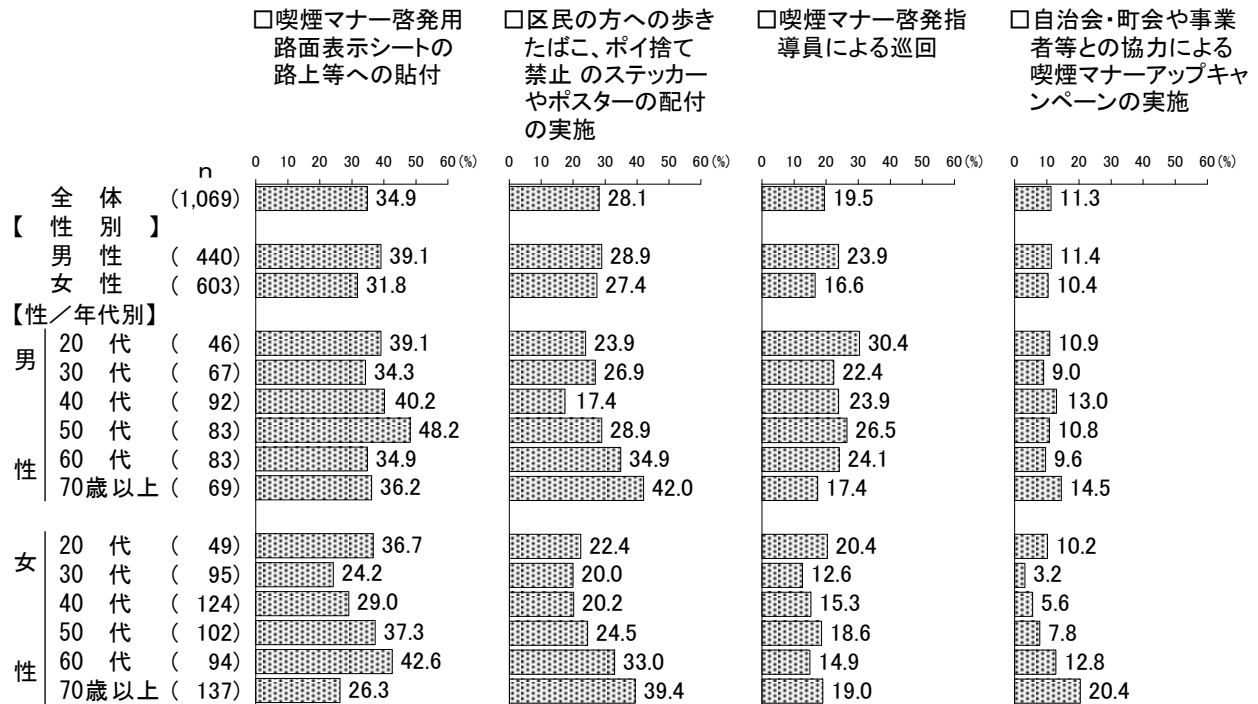
図 14-2-1



喫煙マナーを周知徹底するための取組みについて知っているものを聞いたところ、「喫煙マナー啓発用路面表示シートの路上等への貼付」(34.9%)が3割半ばで最も高く、次いで「区民の方への歩きタバコ、ポイ捨て禁止のステッカーやポスターの配付の実施」(28.1%)、「喫煙マナー啓発指導員による巡回」(19.5%)、「自治会・町会や事業者等との協力による喫煙マナーアップキャンペーンの実施」(11.3%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「いずれも知らない」が多くあげられているほか、「路上喫煙での罰金」、「携帯灰皿の配布」、「近くの喫煙所への案内表示」などがあげられている。(図 14-2-1)

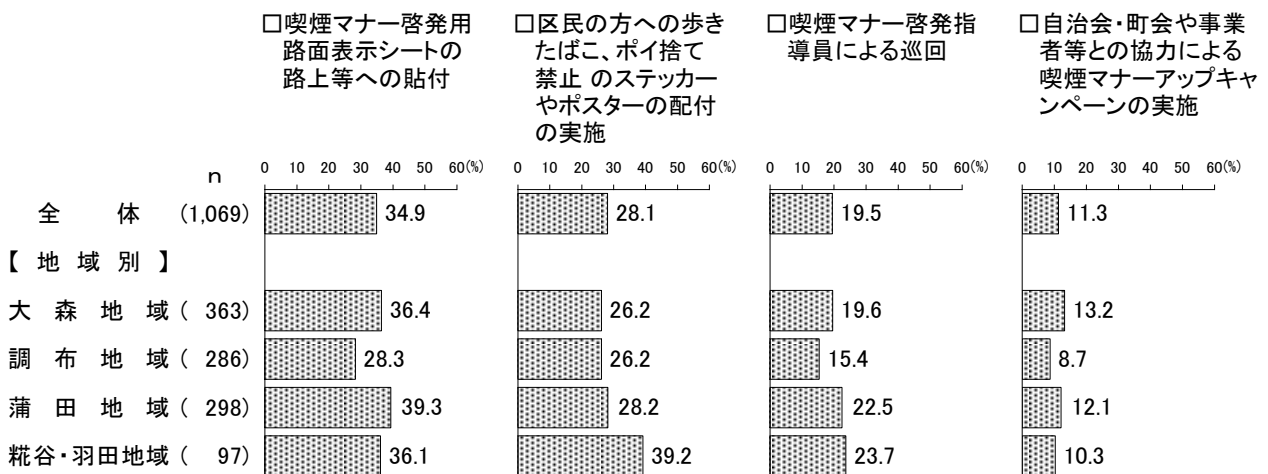
図 14-2-2 喫煙マナーを周知徹底するための取組み—性/年代別



性別でみると、全ての項目で男性が女性を上回っており、「喫煙マナー啓発用路面表示シートの路上等への貼付」は男性（39.1%）が女性（31.8%）より7.3ポイント高く、「喫煙マナー啓発指導員による巡回」は男性（23.9%）が女性（16.6%）より7.3ポイント高くなっている。

性/年代別でみると、「喫煙マナー啓発用路面表示シートの路上等への貼付」は男性50代（48.2%）で5割近くとなり、「区民の方への歩きタバコ、ポイ捨て禁止のステッカーやポスターの配付の実施」は男性70歳以上（42.0%）で4割を超えている。（図14-2-2）

図 14-2-3 喫煙マナーを周知徹底するための取組み—地域別



地域別でみると、「喫煙マナー啓発用路面表示シートの路上等への貼付」は蒲田地域（39.3%）で約4割となり、「区民の方への歩きタバコ、ポイ捨て禁止のステッカーやポスターの配付の実施」は糞谷・羽田地域（39.2%）で約4割となっている。（図14-2-3）

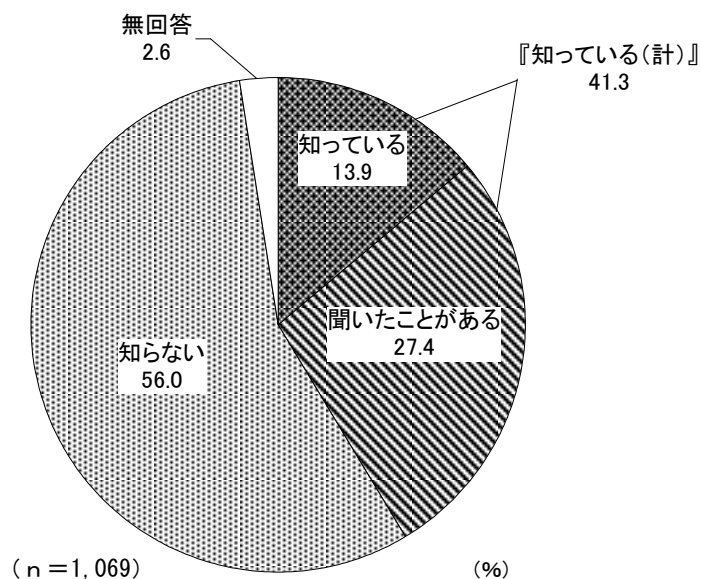
### (3) 「生物多様性」の認知度

◇「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている(計)』は4割を超える

問 26 大田区では、平成 24 年 3 月に大田区環境基本計画を作成し、生物多様性の保全に取り組んでいます。あなたは、「生物多様性」をご存知ですか。(○は1つだけ)

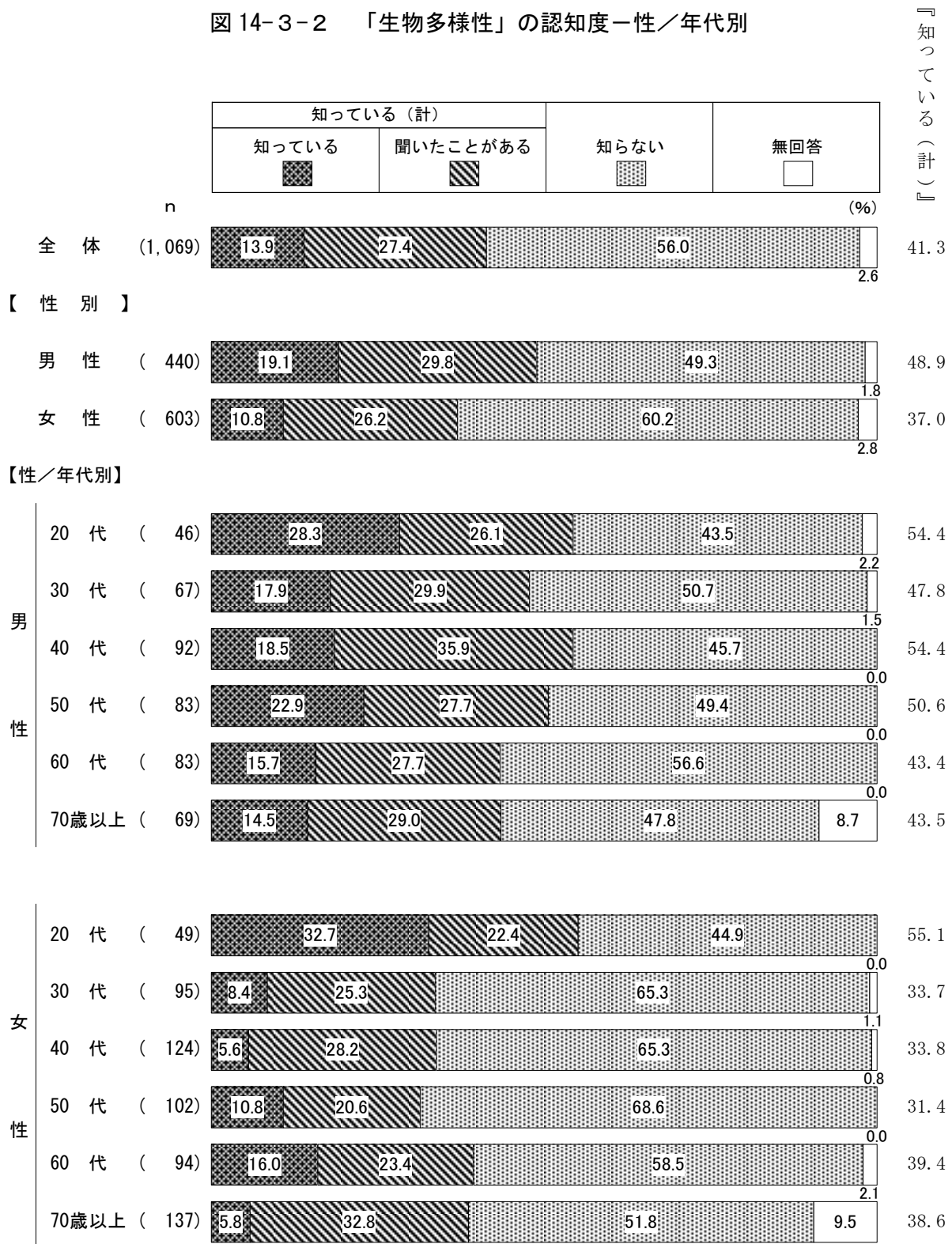
※「生物多様性」とは、あらゆる生物種の多さと、生態系の豊かさやバランスが保たれている状態を言い、さらに、生物の遺伝子の多様さまでを含めた幅広い概念です。

図 14-3-1



「生物多様性」を知っているか聞いたところ、「知っている」(13.9%)と「聞いたことがある」(27.4%)を合わせた『知っている(計)』(41.3%)は4割を超えている。一方、「知らない」(56.0%)が5割半ばとなっている。(図 14-3-1)

図 14-3-2 「生物多様性」の認知度—性／年代別



性別で見ると、『知っている (計)』は男性 (48.9%) が女性 (37.0%) より11.9ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『知っている (計)』は女性20代 (55.1%)、男性の20代と40代 (ともに54.4%) で5割半ばとなっている。一方、「知らない」は女性50代 (68.6%) で7割近くと高くなっている。

(図14-3-2)

#### (4) 「コアジサシ」の認知度

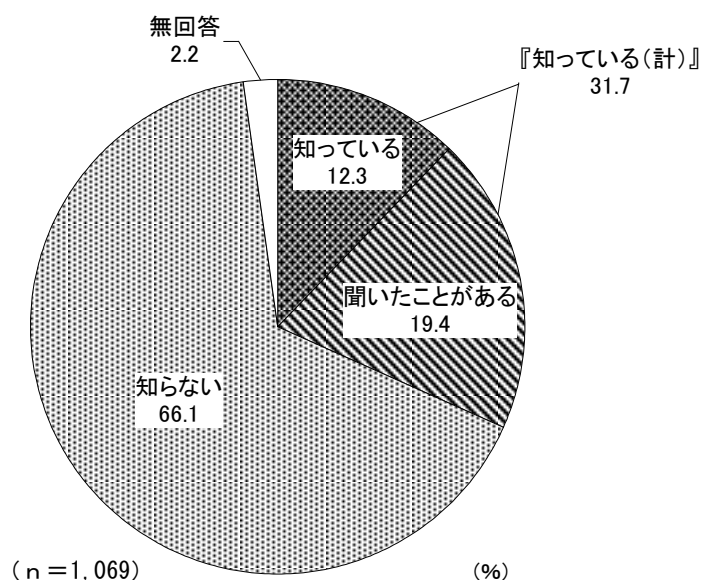
◇「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている(計)』は3割を超える

問 27 生物多様性の保全の取組みのひとつとして、絶滅の恐れのある渡り鳥「コアジサシ」※1の営巣地の整備作業をNPOと一緒にを行っています。「コアジサシ」をご存知ですか。  
(○は1つだけ)

※1 「コアジサシ」とは、日本には夏鳥として渡ってきて、海岸の砂浜や河川の河原・中州でコロニーと呼ばれる集団を作り、繁殖します。環境省レッドリスト※2では、「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」に指定されています。

※2 「環境省レッドリスト」とは、環境省が整理した保護が必要な生物のリスト。危険度が高い順にEX、EW、CR、VU、NT、DD、LPの7ランクで評価。

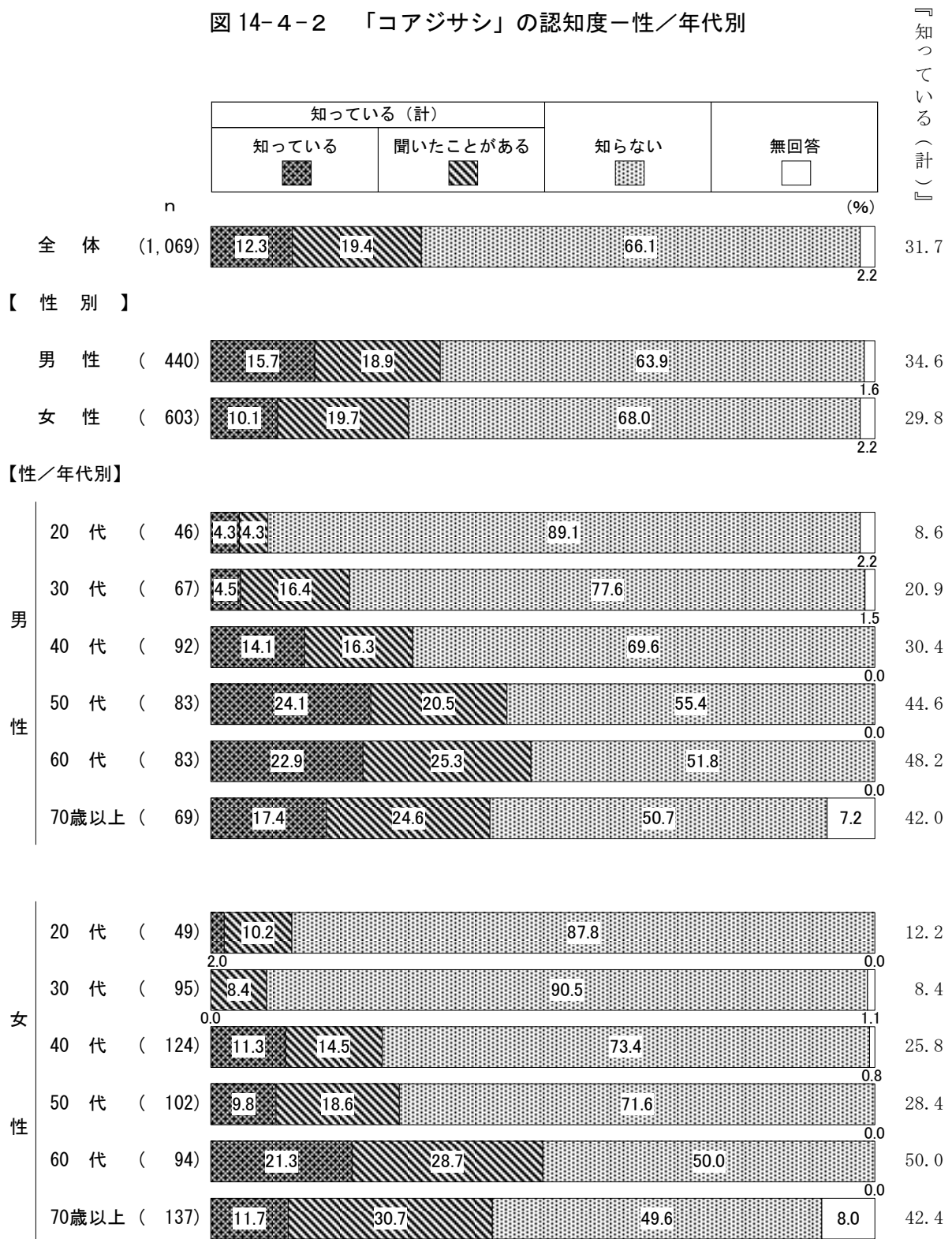
図 14-4-1



「コアジサシ」を知っているか聞いたところ、「知っている」(12.3%)と「聞いたことがある」(19.4%)を合わせた『知っている(計)』(31.7%)は3割を超えている。一方、「知らない」(66.1%)が6割半ばとなっている。(図 14-4-1)



図 14-4-2 「コアジサシ」の認知度－性／年代別



性別でみると、『知っている (計)』は男性 (34.6%) が女性 (29.8%) より4.8ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『知っている (計)』は女性60代 (50.0%) で5割となっている。一方、「知らない」は女性30代 (90.5%) と男性20代 (89.1%) で約9割と高くなっている。(図14-4-2)